



～合併協議会の



会長 木暮 治一（渋川市長）

渋川地区市町村合併協議会では、平成16年に設置されて以来、合併に向け調整すべき数多くの課題について協議を進めてまいりました。各市町村を代表する委員の皆様の前向きで真摯な議論を経て、その成果が今まさに、実ろうとしています。地理的にも歴史的にも数多くの共通項を持ち合わせ、一方それぞれの地域の個性が共鳴しあうこの地域において、一丸となって市町村合併を押し進めた中での新渋川市の誕生であります。

市町村合併という大事業であり、かつ難事業の達成に至る間、本協議会委員の皆様をはじめとした多くの関係者の大変な努力がありました。ここにあらためまして心から感謝申し上げる次第です。新市として新たにスタートを切る今、合併に向けたこれまでの努力の成果は必ずや活かされ、さらに大きな原動力となることを確信しています。

副会長 永井 良一（赤城村長）

渋川地区6市町村は平成13年10月より事務レベルでの調査、研究、検討を開始、平成14年10月に各首長による合併研究会が発足致しました。

その後、約10ヶ月間、新市建設計画をはじめ様々な課題について真剣な議論を経て、平成15年8月28日に「新設・対等合併」を前提とした任意の合併協議会設置が合意されました。以降、地方自治法に基づく合併協議会の協議をかさね、約2年半の歳月をかけてこの度の新「渋川市」が誕生することになりました。

この間、議会や各種団体は勿論のこと、多くの住民の皆さんのご理解とご協力をいただきながら今日を迎えることが出来たのであります。

これからの新市づくりや地域づくりは住民の皆さんが主人公であります。「自分で出来ることは自分でする、地域で出来ることは地域です」という住民自治の原則を大切に「やすらぎとふれあいに満ちた“ほっと”なまち」づくりにむけてお互いに努力して行きましょう。



副会長 阿久津貞司（子持村長）

いよいよ新「渋川市」の誕生です。村民の皆さまのご指導とご協力の下、ご理解をいただき住民の動揺や混乱もなく、合併協議が順調に進められた事に対して心より感謝申し上げます。子持村が誕生して45年間という長い歴史の幕が、今まさに下ろされようとしています。慣れ親しんだ村がなくなることは、大変寂しい気持ちでいっぱいです。子持村の地域が終わりではなく、新たな船出の意識で進んで行くことを望みます。

村を築いた英知と努力に感謝し、素晴らしい歴史と伝統、多くの資源が新市に引き継がれ、有効に活用され、さらなる発展を期待し、住みよい地域になることを希望します。

解散にあたって～



副会長 村尾 隆史（伊香保町長）

今、此処に我が伊香保町の悠久の歴史に想いを馳せるとき、遙か遠く伊香保を辿ると垂仁天皇の頃と伝え聞く伊香保温泉の歴史が始まります。連綿と織りなす歴史は、世代を越えて我が郷土伊香保として眼前に広がりを見せています。

郷土の歴史を築いて参りました人々の幾多の喜び、悲しみ、感動、夢、そして希望は、平成18年2月20日をもって、6市町村それぞれの歴史として新渋川市の新たな一步を踏み出します。

ここに至るまでの多くの皆様のご尽力、ご協力に感謝し、赤城、榛名、小野子、そして子持山の懐に抱かれた新生渋川市の着実にして大いなる発展をご祈念申し上げます。



副会長 小野 利治（小野上村長）

いよいよ本年2月20日に6ヶ市町村が大同団結した新しい渋川市が誕生いたします。

種々な数多くの協議が紆余曲折を経ながらも、ここに市町村合併という一大事業を完遂できますことは、合併協議会の一員として微力ながらも合併に携わった者として、万感胸にせまる思いがありますと同時に多くの関係各位の努力及び合併協議を温かく見守ってくださった管内住民の皆様に対し深甚なる感謝をする次第であります。

合併後は新渋川市の同志として、各々の地域が一致結束して新しい郷土発展に邁進されますことを心からご祈念申し上げます。

合併後は新渋川市の同志として、各々の地域が一致結束して新しい郷土発展に邁進されますことを心からご祈念申し上げます。

副会長 木村 榮一（北橋村長）

市町村合併は、地域再生を目的とした構造改革であります。単に市町村の垣根を取り払うだけでなく、旧市町村が持つ人材や産業、特産品、文化、観光資源を有効に生かし、次世代へ向けた地域づくりのための戦略的な構想力がなければ合併は成功しません。

憲政の師とされる尾崎行雄は「人生の本舞台は、つねに将来にあり」との言葉を残しています。美しく魅力に富んだ新渋川市が、互いの役割を認め合い交流しあう道が、これからの渋川市づくりだと思います。

それには、新市が元気であってこそ、道が開かれます。渋川市が元気であるために、住民の方々の積極的な参加と活動をお願い申し上げまして、渋川地区市町村合併協議会解散にあたりましてのご挨拶といたします。

